成人向
同人誌
18歳未満の
購入・閲覧禁止
ぼくと
リーザお姉ちゃん

BOKU TO
LIEZA ONECHAN

リーザおねえちゃんは
ぼくのあこがれの人
ホルンの村に住んでる
魔法使いで、
すごいハンターでもあるんだ
美人でスタイルもいいし
とっても優しい

ぼくの名前はリッツ
ホルンの近くのラムールの町に住んでる
おねえちゃんとはホルンのつり橋で
出会ってから、
ロマリアの悪いやつを懲らしめたり
つかまった人たちを助けたりで
一緒に冒険したんだ

おねえちゃんは
悪いロマリアから
世界を守るために旅してる
アークって人たちの仲間でもある
ラムールが危なかった時も
ぼくたちを守るために
戦ってくれた

やがておねえちゃんは
仲間たちと行ってしまった
おねえちゃんと離れるのは
さびしかったけど…でも
おねえちゃんと約束したんだ
ぼくはおねえちゃんの故郷を守るって
ぼくもきっと強くなって
おねえちゃんがいつでも
帰ってこられようにって、
そう思ったんだ

ドカ

ドッ

あれからどのくらい
経っただろうか…
ぼくは壊されたホルンの村の
復興のお手伝いする日々を
送っていた

そんなある日
ラムールへ買い物しに
もどる途中、ぼくは
村のはずれで
思いがけないものを見た

長い髪に
優しい笑顔
それはリーザ
おねえちゃんだった

リッツ！

おねえちゃん！

ふふっ ただいま

トテテ

なんと
おねえちゃんが帰ってきた！
聞けばハンターのお仕事で
しばらくの間ここに
滞在することになったんだって
ぼくはとても嬉しくなった

おねえちゃんは
相変わらずきれいだった
長くてきれいな髪
優しい声に笑顔。スタイルは…
なんだか前より良くなったのかも
ぼくはドキドキしてしまった

ガチャ

ホルンの
おねえちゃんの家はまだ
直してる途中なので
おねえちゃんには
ぼくの家に
泊まってもらうことにした

けっこう散らかってたけど…
おねえちゃんのベッドは
急いできれいにした
これなら気持ちよく
使ってもらえるかな

おねえちゃんが来た夜
その日は夜更かしして
おねえちゃんとお話した
おねえちゃんのいない間の事や
、おねえちゃんからも
旅の事をいっぱい聞いた
真夜中になっても、
ずっとお話してた

「もう寝ないとダメよ」
おねえちゃんに言われたけど、
ぼくはなんだか嬉しくて、
ドキドキして全然眠くなかった
おねえちゃんは少し困った様子ながらも
結局ずっとぼくに付き合ってくれたんだ
明け方近くまで、
ぼくたちはたくさんお話した

それからおねえちゃんと
一緒の生活が始まった
ぼくにとっては
すごく幸せな時間だった

一緒に朝起きて
一緒にホルンにお手伝いに行ったり
一緒に買い物したりした
ぼくたちはいつも一緒に過ごした

おねえちゃんに
ご飯を作ってもらったりもした
いつかお姉ちゃんと一緒に食べた
クリームシチュー。今度は
おねえちゃんの手作りだ
おねえちゃんの手料理はそれはもう
世界で一番おいしいと思った

ぐっ
ぐっ

ぼくは
おねえちゃんが
好きだ

おやすみ
リッツ

うん
おやすみ
なさい

おねえちゃんと
このままずっと
一緒にいれたらいいなと
ぼくは思っていた

チュン…
チュン

ん…ん
モゾ

…？
…おねえちゃん？

ある朝
おねえちゃんがいなくなった
夜に一緒におやすみしたのに
朝起きたら消えてしまったいたんだ
何だか胸騒ぎがして
ぼくは飛び起きた

ぼくはおねえちゃんを
さがして回った
ラムールの町、ホルンの村、
昨日一緒に行った商店街や
フォーレスの山が良く見える
ホルン近くの小高い丘
どこに行っても見つからなかった

町のおじさんや
おばさんに聞いてもみたけど
誰も姿を見てないって…
昨日までの幸せな気分も
ウソみたいに消えて
ぼくは不安でたまらなくなった

夕方ー

日も暮れ始めて
ぼくは家にもどる途中…
町中で、その日一日中
さがしても見つからなかった
おねえちゃんを見つけた

…
おねえちゃん？

おねえちゃんはいたって
いつもどおりの様子だった
何事もなかったみたいに
今日の事はいったい
なんだったんだろうか…

……

聞くと、ハンターのお仕事で
夜中の内に出かけたみたい
それならおやすみの前に
言ってくれたらよかったのに…
「ぼくもお手伝いしたい」というと
あっさり断られて、
それ以上何も言ってくれないって

おやすみなさい
リッツ

また明日ね

うん

それから…

毎晩おねえちゃんは
いなくなるようになった
毎日、毎日ー
朝起きるとぼくは
ひとりぼっちだった

おねえちゃんが戻ってくるのは
きまって夕方から夜になった
そんなに長い間、毎日おねえちゃんは
何をしているんだろう…
おねえちゃんに聞いてみても
教えてくれないし…

ぼくは空っぽのベッドを見て
無性に寂しくなった
ぼくはおねえちゃんと
一緒にいたかった…

……

そして…
ある日の晩

ぼくはおねえちゃんの
あとをつける事にした
眠いのを我慢して…
寝たふりをして待ってると
おねえちゃんが起きだして仕度をはじめた
月も上りきった、真夜中のことだった
家を出たおねえちゃんに気づかれないように
ぼくもこっそりとあとに続いた

…

真夜中の町は静まり返って、
明かりひとつなく、真っ暗だった
真っ暗な道をおねえちゃんは
迷う様子もなく進んでいく
ぼくもおねえちゃん
を見失わないように注意して
あとについていった

おねえちゃんにとっては毎日毎日
通いなれた道なんだろうか…
暗い路地を抜けて、
そしておねえちゃんは
ぼくのあまり行ったことない
町外れのほうに向かって歩いていった

町外れは、ラムールでも
お金持ちな人たちの家が
いっぱい建っている高級住宅地だった
おねえちゃんは、そのうちの一軒の
屋敷に入っていった

ギィ

…
でっかい扉…

キィ

あたりを見回ってみると
裏口のカギが
あいてるのに気がついたので
ぼくは屋敷の中に
入ってみることにした

家の人に見つかったら
怒られそうだけど…
ぼくはおねえちゃんの事が
気になって仕方がなかった
中には人の気配はなく、
ぼくはすんなりと入りこめた

屋敷の中はすごく広かったけど、
明かりはなく真っ暗で
人は誰もいなかった
ぼくは広い屋敷の中を
おねえちゃんを探して回ることにした

ぼくはおねえちゃんのことを考えた
おねえちゃんを見つけたら…
怒られて、追い返されるかもしれない
ハンターの仕事って危ないし、
大変なのはわかってる

でも、ぼくは
おねえちゃんの役に立ちたかった
少しだけでもできる事があると思うし
それに、お姉ちゃんのそばにいたかった

おねえちゃんを思いながら
真っ暗で長い廊下を
ぼくはひたすら進んでいった

トコ トコ

そして、長い廊下の突き当たり
とある部屋から
明かりがもれてるのに気がついた
少しだけど、人の声も聞こえてくる
あそこにおねえちゃんがいるんだろうか

…!!

ぼくは駆け寄って、
その扉のスキマから
中の様子を
見てみることにした

あ…っ

そして、ぼくは
おねえちゃんを見つけた

いッ

んああっ！

はっ…

はぁんっ

ギシ

ブルン

ブルン

ギシ

ギシ

おねぇちゃんはベッドで
知らない男の人と裸で
抱き合っていた…

ギシ

あっ

ギッ

んっ

ギッ

ッ！
おね……

くふふ
相変わらずの腰使い…
いや、ウデをあげたようだな
リーザ

…あ
ありがと
ございますっ

しかし世直し勇者ご一行も
大変だな、世界を救うため
こうやって協力者を
体で募らねばならんとはな

んっ

ふっ

プルン

ぐちゅ

ぐちゅ

んんっ

ビクッ

まぁ君の体のおかげで
私どもは協力を
惜しまないことになりそうだが…
かわいい顔して…
とんだ魔性の女だ

ぐちゅ

ぐちゅ

いや、
そもそも魔女だったか
ホルンの魔女…

あの男は…前に
見たことある気がする
確か「セイジカ」とか
「ギイン」だったか…
その男のちんちんが
おねえちゃんに刺さっていて
おねえちゃんの
切なそうな声がひびいている

ンッ

く…っ

ぶるッ

ぴくッ

ちゅうっ♥

ふうっ

ぐちゃ ぐちゃ

ギシ

二人が何をしてるのか
わからない…
ぼくはおねえちゃんを
助けたかったけど
二人にはなんだか
近寄れない感じがして
ぼくは見ていることしか
できなかった

んはあっ

ぴくッ

ずぞぞ

じゅるっ

ちゅ♥

んんッ…

おねえちゃんと男は
キスをした
憧れだったおねえちゃんの
やわらかな唇…
あの男はそれに今
乱暴にしゃぶりついている

んふっ

ぎゅ♥

ふっ

んっ

長い間…一分も二分も
おねえちゃんと男は口付けしあって
ぎゅうっと抱き合いながら
ベッドの上でごろごろしていた

おねえちゃんと男の体が
激しくぶつかり合い
優しくこすれ合い…
長い間、ぼくは
ずっと抱き合う二人を
扉の外から眺めていた
パン
パン
パン
売女がっ！
気持ちいいんだろ？
こんなに股を濡らして
鳴きおって！
はひぃ
ガク
ピクッ
一番奥に出してやる！
ありがたく受けとれっ
んあッ
ビクッ
ビクッ
あ…はあぁっ！
ビクッ
ビクッ
ヌポ…
くはあッ
男に言われるまま、
おねえちゃんは男におまたを…
今までちんちんが入っていた
ところを目いっぱい広げて見せた
おねえちゃんの中から
何か白い汁がたくさん
あふれ出てくるのが見えた
…ふぅぅ
年甲斐もなく
熱くなってしまった
ほら、
見せなさい
ビクン
ビクン
ビクン
はっ♥
ブルッ
ハッ
これはこれは…ハハ
まいったな、一回戦で
こんなに搾り取られて
しまうとはな
ドロ…♥
ふっ
ビクッ
ビクン

あんっ♥

おねえちゃんは…
足をめいっぱい広げて
男に、自分の
恥ずかしいところを
見せつけていた

…っ

そしておねえちゃんの顔…
それは恥ずかしそうで
照れくさそうな
ぼくの今まで
見たことない笑顔だった

やだ…すごい♥
こんなにいっぱい…

ぼくはおねえちゃんの
本当の姿を見てしまった…
仕事のために
イヤイヤやってるのかも…
そうだったらぼくが
おねえちゃんを助けなきゃ
ぼくはそう思いたかった

でも、そうじゃないみたい…
おねえちゃんは、
自分に乱暴した男に体を開いて
笑顔を振りまいていた
ぼくの知ってるのとは
全然違う笑顔を

なに、まだまだ
ごちそうしてやるぞ
さぁ、来なさい

んっ
ありがとう
ございます

そしてすぐにまた二人は
抱き合い始めた
ぼくは見てることしか
できなかった…

白い汁でぐちゃぐちゃになってる
おねえちゃんのおまたに
男のちんちんが入っていくのが
見えた

あっ…♥

…！

突然廊下の奥から
人が歩いてくるのが見えた
ぼくはおねえちゃんを置いて
その場をにげ出した

?

家に逃げ帰ったぼくは
ベッドにもぐりこんだ
でも…
とても眠れそうにはなかった

おねえちゃんの事しか
考えられないのに
おねえちゃんの事を思うと
すごく胸が苦しくなった

ドクン。
ドクン
…

翌日ー

いつの間にか寝てたぼくが
目が覚めたのは、
もうお昼過ぎ
日も高く上りきったころだった

でも、
おねえちゃんのベッドは
空っぽのままだった
おねえちゃんはまだあの男と
一緒にいるんだろうか…

リーザおねえちゃん
ぼくの大好きなおねえちゃん
いつもぼくに見せてくれる優しい笑顔と、
男と裸で抱き合いながら見せたあの笑顔
どっちが本当のおねえちゃんなんだろう

一人きりの部屋のベッドの中で
ぼくはそんな事を考えていた
おねえちゃんに戻ってきてほしかった
おねえちゃんと一緒にいたかった

でも、それは
何だか無理な事に思えて
ぼくは悲しくて
たまらなくなった…

それからも毎日毎日
おねえちゃんは男の家に通った
そしてぼくも
おねえちゃんの後を
ついていくようになった

今日の相手もまたあの男
もう一時間以上も
おねえちゃんと男は
体をぶつけ合っていた

はぁッ
あぁんっ
あはっ
パン
パン
ブルン
ブルン
んふっ…！
ふぅーーっ
ビクッ
ビュルル
んんっ！んっ…っ

ん…
じゅぽ
じゅぽ
コポッ

おねえちゃんは今まで自分の
おまたやお尻の穴に入っていた
男のちんちんを、口でくわえてる
ぼくはその様子を
窓の外から見てるだけ

コソッ
んぶっ
んっ
じゅぽ
じゅぽ
じゅぽ
んっ

そんなおねえちゃんの
かわいそうな姿を
ぼくは毎日毎日眺めている
悲しくてたまらないはずなのに
何でだろう…

んあああッ
はっ
はあッ
ひっ
はひぃっ…！
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ガクガク
は…ッ！
ビュルルッ
ビュッ
ビュッ
ビュッ
ふうう
ふっ
ハアッ
ハッ
ハアッ
長い間…明け方過ぎまで
おねえちゃん達は
抱き合い続けて
そして眠りについた
寄り添って静かに眠る二人
窓の外までひびいてた
おねえちゃんと男の声は
もう聞こえない
ぼくは
その場を後にした
…っ

おねえちゃんが来てから
1週間…2週間と過ぎていった
おねえちゃんは毎日男のとこへ通ってる
最近は帰りも遅くなって、
夜まで帰らない事も多くなった
丸1日帰ってこない日もある

今日ももう日が沈むけど
おねえちゃんはまだ帰らない
ぼくはおねえちゃんの事を思った

おねえちゃん…
まだあの男のベッドの中にいるのかな
今何をしてるんだろう
考えるほど、
たまらなくなってくるけど
何でだろう、おねえちゃんの事を
考えずにはいられなかった

ある時ぼくが
ホルンの手伝いから帰ると
ベッドでおねえちゃんが
眠っているのを見つけた
おねえちゃんの姿を見るのは
2日ぶりの事だ

おねえちゃんの姿はひどいものだった
髪はほどけて、服は乱れて
白い肌はところどころ汚れがついてたし
何だかヘンなにおいもした
男に乱暴されたまま
追い出されて、疲れ果てた体で
ここまで帰ってきたんだろうか

おねえちゃんのその姿と
安らかな寝顔を見て
ぼくは胸がはり裂けそうになった

おねえちゃんの相手は
あの男だけじゃなかった
最近は日ごとに違う家を
泊まって回ってるみたい
でもおねえちゃんの仕事は
毎日同じものだった

ひあッ！
やっ
あっ
んあッ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
コンコン

今日もぼくは
おねえちゃんが
知らない家の中に
知らない男と一緒に
入っていく様子を
こっそりと見守ってる

……

あっ♥
あんっ
あはあっ♥

ある日
ぼくは最初の男の家で
とんでもないものを見た
最後におねえちゃんが
出かけてから
3日経った夜の事だった

おねえちゃんは三人の男に
もてあそばれていた
しかも、多分ぼくと同じか
ちょっと上くらいの
年の男の子たちに…

ヘヘッ

オヤジが何やらせても
大丈夫って言ってたしな

もっとカゲキに
やってもいいぜぇ

ま、
ドレイってやつ？

ハハ

んくっ

オイッ見ろよ

あいつらは…
おねえちゃんを
おもちゃか何かにしか
思ってないみたいだった

ほらほらー
止まるんじゃねーよ

ムチ入れないと
わかんねーか？ハハ

んふー

んふっ

おねえちゃんの
かわいそうな姿と
男たちの笑い声が
ぼくの頭に焼きついた

ビシッ

パシッ

パシッ

プルッ

ブルブル

プピィ

よーし お前らいいもの 見せてやる
おっ なんだぁ
おいドレイ! 何か俺モヨオシて きたんでさぁ
いつものアレ やれ
いいかぁ 見てろよ~
ビュッ
ンッ
うわっ!
……ッ
まじ? ションベン 飲んでらコイツ!
きったな!
ゴキュッ
ゴキュッ
スゲー! 俺もやろっ
コイツ実は ベンキだからよお
男たちに大笑いされながら そいつらのおしっこを 口で受け止めていく おねえちゃん
おねえちゃんは平然と それを受け入れていたけど ぼくは悲しくてくやしくて 泣きながら その様子を見つめていた

ン…
ギシ
ギシ
んぶ
んっ
ちゅうう
んんーーっ
んっ！
ンッ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ハアッ！
ハッ
ビュルル
ブルッ
はあああッ
あぐっ…
ビクッ
ビクッ
かはっ
ガリッ
ハ
ふーっ
すっきりしたわ
出すもん
出したな
ハ？
ハ？
へへ
汚くなっちまったし皆
フロにでも行くかぁ
おめーも
洗ってやるからよ
…中まで手つっこんで
きれいにしてやるぜ
ハハハ
う…
ビクッ
けほっ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビュビュル
ほら
立てよぉ…
体中ドロドロになった
おねえちゃんと男たちは
部屋から姿を消し
戻ってくる事はなかった
おねえちゃんが
帰ってきたのは、
それからさらに2日経った
後の事だった

おねえちゃん…
なに？
おねえちゃんは
ハンターのお仕事
やってるんだよね
そうよ
…お仕事ってさ
つらくないの？
…
どうして？
えっと、
その

いつも遅く帰ってくるし
たまに、疲れてるかなって
思って…

この日もおねえちゃんは
日が暮れてから帰ってきた
たまたま、久しぶりに
ホルンへのおつかいに
付き合ってもらったけど…
ぼくはおねえちゃんの
お仕事を知ってるとは
言えなかった
本当に久しぶりの、
おねえちゃんとの一緒の時間を
台無しにしてしまいそうで…

そうねぇ
たしかに大変な仕事だし
すごく疲れもするけれど…

でも、つらいって
思った事はないわ

おねえちゃんは、
いつもの優しい笑顔で
そうはっきりと言った
ぼくは何故かおねえちゃん
笑顔を見るのがつらかった

おねえちゃんは言った
おねえちゃんの仲間たちは
今も世界のどこかで戦ってる
ロマリアに苦しめられてる人たちを
助けるために

私ががんばれば、それは
そんな人達を
助ける事につながると…
私は故郷を、大切な人を
ロマリアによって
失ってしまった…

ほかの人には、私と同じ思いを
してほしくない
そうなろうとしてる人達を
助けたいんだって…
それがおねえちゃんの思い
そのためにはお姉ちゃんが
[illegible]を何でもすると…

ぼくは
わからなくなってしまった…
おねえちゃんに
あんな事を続けてほしくない…

ずっとぼくと一緒にいてほしいって
そう思うけど、それはぼくの
わがままなのかも…

ぼくが何もいえないまま
おねえちゃんとの
二人の時間は
過ぎていってしまった

おやすみなさい
リッツ

また明日ね

……

おやすみしたくない…
おねえちゃんが
また行ってしまう
おねえちゃんと
一緒にいたいのに…

……うん
おやすみ、
おねえちゃん

あれから数日後…
おねえちゃんは男のもとへ出かけ
ぼくはまた
おねえちゃんのあとをついてきた
今日は最初の男の家だった

でも何だか
いつもと様子が違う
広い庭にはたくさんの
黒い車が停まっていた
車って、ラムールでは
かなり珍しいけど…

ぼくがいつもの
部屋に向かうと
部屋の明かりと、
人の話し声も聞こえてきた

ヒョコ

広い部屋の中には、
たくさんの男の人達が
集まっていた
15人…20人
くらいだろうか

皆、裸手前の格好で
全員マスクで
顔を隠してる…
すごくヘンな雰囲気だった

ガヤ
ガヤ

久しぶりですな
この手の催しも

何か始まったんだ
おねえちゃんは
どこいったんだろうか

例の娘
らしいですよ
ホルンの

ぺたっ

皆さん、
お待たせ致しました

!!

おおっ

ご覧のとおり
本日は極上品ですぞ
たっぷりと
お楽しみください

よ、よろしく
お願いいたします

ほほぉ…

プルッ

いや
これは見事な

部屋の中におねえちゃんが、
あの男に連れられて
入ってきた
まさかこれから
この大勢の人たちの
相手をするんだろうか

おねえちゃんは沢山の男達の前で
裸をさらしている
周りからの視線や声に
おねえちゃんは恥ずかしそうな、
嬉しそうな顔を見せた

…

おねえちゃんのおっぱいには
…良く見るとおまたにも
ピアスが付けられていた
今日のためにあの男が
付けさせたんだろうか…

うほほ

…っ♥

さ、リーザ
楽しいイベントの
始まりだ

挨拶しなさい

…はい♥

ホルンの
リーザと申します
本日はお集まりいただき
まことに
ありがとうございます

また皆様方には、
私どもに
大きなご支援をいただけるとの事で
感激の極みでございます

スッ…

ウ…

本日はそのご恩に対しての
心ばかりのお礼の催しです

皆様のご要望は
どのようなものでも全て
誠心誠意
応えさせていただきます

皆様のお相手は私
リーザが
精一杯つとめさせて
いただきます

どうか皆様
心ゆくまで
お楽しみください

おねえちゃんの挨拶が終わると、
部屋の中で大きな歓声が上がり
そして男達はいっせいに
おねえちゃんに群がっていった

部屋の中にはいろいろな
道具があって男達は
それを手に取ると
おねえちゃんを
おもちゃにし始めた

おねえちゃんを縄で縛り
ムチで叩き、
ろうそくを当てたり
とんがった木の上に
座らせたりもした

ふうっ

んふッ

んんーーーっ

んヒッ

ひっ

ヘッ

ハヘ

ヘッ

おねえちゃんが
かわいそうな姿になるたび
男達は手をたたいて
大声で笑っていた
でもおねえちゃんは…
いつもより
大分苦しそうだけども
それを全て受け入れていた

道具で一通り遊んだ後、男達は
ヘトヘトになったおねえちゃんを立たせると
一人ひとりちんちんを差し込んでいった
おねえちゃんのお尻が叩かれる
パンパンという音が
窓の外にもひびいてくる
一人の男がちんちんを引き抜くと
おねえちゃんのおまたからあの白い汁が
こぼれ出てきた
その穴にまた別のちんちんが入れられ…
おねえちゃんは、
立ったままの格好で
長い時間をかけて
全員分のちんちんを
受け入れる事になった
くっ
ンッ
うんッ
あぁ…
はへぇ～…
んあはぁッ！
はぁっ
ビクッ
ドクッ
ドクン
ビクッ
ビクン
パン
ガクガク
ぐぢ

その後おねえちゃんは
ベッドに寝かされ
おまたとお尻の穴、口に
それぞれちんちんを
入れられ始めた

ズコ
ズコ
ズ
ぶっ
んふ
ふくうぅーーッ
んぐっ
グブッ！
ビクン
ビクン
ごりっ
ぐりっ

ハァ…あ
ビュッ
ビュルル
ドクドク

ぐったりと疲れきった
おねえちゃんの全身と、
体の中に男達の
白い汁が塗りたくられて、

おねえちゃんは
しばらく気を失ってた
みたいだったけど
気がついたとき、
男に貫かれながら見せた表情は

ぷはあっ♥
あっ
かっは
ビクン
クヒヒ
ハァ
ハァ
ビクッ
ビクッ
ブルルッ
トロ…
ギチッ
ギチ
ゴリッ
ギシ
はぁぁん…♥
んあぁぁ

たしかに笑顔だった
ぼくは男達と、
全身をどろどろにさせながら、
悦び合うおねえちゃんの姿を
目の当たりにした…

ああぁーーんっ♥
はっ
ハアッ♥
くはっ
ギッ
あっ
あっあっ
はっ
ああぁッ！
は…っ！♥
うあ…
あはぁぁ～♥
…っ
おねえちゃん…
あっ
あー♥
う…
うぅっ
おねえちゃん…
んん…っ

to be continued

あとがき

2013/8/11
書いた人：tokyo

どうもtokyoでございます。
まさかのリーザ本（二冊目）

実はオネショタが描きたかったんです。オネショタの話の
前座部分に気合が入りすぎて、結局一冊分できてしまいました。
なのでこの話はオネショタパートへと続きます。多分…その内？

さてまたしても俺得でしかないアーク２のリーザ本を描いてしまいました。
実は今回別の漫画を出す予定だったのですが、何か
諸事情でポシャってしまい、実は前から暖めていたリーザ本に
鞍替えしたという次第でございます。ネタ自体は前々からもっていたのですが
いざ描き始めるとあれこれと思いついたパーツを盛り込み始めてしまい
結局原形をとどめてないという、そんな感じの本でありました。

そしてリーザ本はともかくなぜリッツなのか？
まぁリーザって基本的にモンスターに犯されてたりとか、
盗賊もといジェフリー先生にレイプされたりとか、
あとまぁ体売ってる属性は個人的な好みからです（お
そういうのが似合う女の子だと思うのですが。
本編キャラと絡ませるんであれば、リッツだと思うわけですよ。
エルク×リーザは、何かいまいち萌えないです。
エルクがリーザに性的興味を持ってるイメージが全然沸かない。
リッツはいいですね。この子は多分リーザを性的な目で見てると思います（お
でもリーザの方は完全に弟みたいな扱いでそれに全く気がついてない、みたいな
まぁそんな事をモヤモヤと妄想してたらこんな本ができましたよ、という
そんな感じです。

昔はなんとも思わなかったけど、今見てみるとリッツはいい感じに
可愛らしい男の子ですね。素直だし、結構有能だし。
ただ今回、リッツをいい感じに可愛く描けたかは
何とも微妙なところであります。可愛い男の子って難しいですね。ホントに
ちなみにリッツのデザインは適当です（お　テレビ画面見ながら描きました。
攻略本を資料代わりに使ってたんですが、これにメインキャラ以外の設定資料とか
載っていればなぁ…ガルアーノとかヤグンとかのイラストはあったけど

さて締切りがもうすぐそこなので；今回はこの辺で。
漫画はともかくリーザのイラストなら、ピクシブでたまに描いておりますよ。
リーザ好きの諸氏は実に来てみてね！

奥付

ぼくとリーザお姉ちゃん

■発効日：2013/8/11　再販2013/9/1

■発行元：GREAT芥（ http://acta.sblo.jp/ ）

■著者：tokyo

■印刷：ねこのしっぽ 様

BOKU TO LIEZA ONECHAN

PRESENTED BY GREAT acta